

令和元年度 部局長マネジメント方針

ふじと 　　いつお
消防局総務部長 藤戸 逸夫



仕事に対する基本姿勢

今日における消防は、常備の自治体消防と非常備消防である消防団がそれぞれの特徴を活かし、連携協力しながら着実な発展を遂げ、火災等の各種事案に対応してまいりました。しかし、都市構造の変化から災害は複雑多様化し、地震、台風、集中豪雨等の自然災害が日本各地で頻発するなど、市民を脅かす災害は後を絶たない状況となっております。

また、高齢社会の進展等に伴い救急件数が増加しているほか、ラグビーワールドカップ2019日本大会やワールドマスターズゲームズ2021関西など国際的なイベントの開催を控え、消防が果たすべき役割は、益々大きくなっています。

消防局総務部では各種災害や増加する救急需要に対応できる体制を確立するため、消防車両や現場活動装備の整備を計画的に行うとともに、職員を専門研修機関へ派遣するなどハード、ソフト両面の充実を図り、より一層の消防体制の強化に努めてまいります。

平成30年度の振り返り

- ・ 救急体制の充実強化については、本年10月に西消防署本署へ救急隊1隊を増隊するため、増員に係る職員定数条例の改正を行い、救急体制の強化に向けて取り組みました。
- ・ 消防団の充実強化については、地域防災力として重要な役割を担う消防団員の防火衣及び投光器を整備し、現場活動における装備の強化を図り安全確保に努めました。
- ・ 人材の育成については、高度化する救急医療に対応するため救急救命士の養成を行うとともに、ラグビーワールドカップ2019日本大会が本市で開催されるため、テロ災害等に特化した研修に職員を派遣し、各種研修を通じて職員の知識と技術を高め、消防体制の強化に努めました。

1 消防体制の充実強化

近年、地震や台風などの自然災害が全国的に頻発し、各地では多数の死傷者や、家屋の全半壊などの甚大な被害を受けています。本市においても例外ではなく、昨年7月に発生した台風第21号が猛威を振るい、強風により家屋の屋根が飛ばされたり、大きな樹木が倒れるなど多数の被害を受けたところです。この日に受けた119番は900件を超える通報があり、非常招集により人員を確保するとともに、全車両を投じてこれらの災害に対応いたしました。

一方、救急需要は、高齢社会の更なる進展により、出動件数は増加傾向にあり、昨年の件数は32,058件で、過去最高値を更新いたしました。

これらの災害や救急需要に適切に対応するため、主力となる消防車両等を引き続き計画的に導入又は更新するなど、時代に即した消防力をソフト・ハードの両面から強化してまいります

2 消防団の充実強化

消防団は、地域防災の中核的存在として、平常時においても地域に密着した活動を展開しており、消防・防災力の向上、コミュニティの活性化にも大きな役割を果たしているところです。

また、近年頻発する自然災害をはじめとする各種災害において積極的に活動する等、消防団の重要性について再認識されているところです。

本市におきましても、地域防災力の強化を推進するため、消防団の現場装備品、各種資機材等の充実強化に努めてまいります。

3 人材の育成

団塊世代職員の大量退職に伴う大量採用により、若手職員が増加したことから、各種訓練を通して知識や技術を錬磨させるとともに、消防吏員としての専門的知識の習得と倫理観の醸成を図り、人的資質の向上に努めてまいります。

また、管理監督体制を強化することにより組織力を強化し、魅力ある職場環境づくりに努めてまいります。